

令和3年度 第73回 卒業式 式辞

本日ここに、PTA会長 小関明德様、教育後援会会長 長谷川憲治様、駒草同窓会長 片桐道子様をはじめ、PTAや富澤学園関係の皆様をご来賓に迎え、第73回 山形城北高等学校卒業証書授与式をこのように盛大に挙行できますこと、卒業生とともに職員一同、暑く御礼申し上げます。

ただ今、卒業証書を授与しました286名の皆さん、ご卒業おめでとう。

そして、保護者の皆様、本日はお子様の立派に成長された晴れ姿に、感慨ひとしおのことと存じます。この2年間はコロナ禍にあって、学校行事や各種大会・コンクールなど、お子様の成長した姿を確かめる機会が奪われてしまいました。特に、親元を離れて過ごすご家庭にあっては、会いたくても会えない日々が続き、その心中はいかばかりだったかと拝察いたします。しかし、そんな中であっても、優しい眼差しを持って子どもの悩みや喜びに共感し、本校教育に対しましても温かいご支援とご協力を賜りましたこと、心より感謝申し上げます。

さて、卒業生の皆さんが本校で過ごしたこの3年を振り返ると、天皇陛下が即位し令和へ改元、沖縄では首里城が、パリではノートルダム大聖堂が消失。京都アニメーションスタジオや大阪の雑居ビルでは放火殺人という痛ましい事件も起こりました。政治では、安倍首相が突然辞意を表明し、菅総理が誕生、そして1年余りで岸田新総理へとバトンタッチ。行政では、文書の改ざんや統計資料の不正が後を絶ちませんでした。消費税が10%に引き上げられ、レジ袋の有料化も始まり、劇場版『鬼滅の刃』無限列車編が国内興行収入歴代1位を記録。世界に目をやれば、米中貿易摩擦の激化やイギリスのEU離脱、アフガニスタンでは武装勢力タリバンが復権、そしてロシアのウクライナへの侵攻。スポーツでは、マリナーズのイチロー選手が引退、それに代わるように大谷選手がメジャーで活躍しMVPを獲得。東京五輪は一年遅れて無観客での開催になりましたが、バレーボール競技で本校OBの高梨健太選手が躍動しました。

あっという間の3年間、その内2年はコロナ禍にあったわけですが、それでも社会は動き、世界は揺れ続けたことが分かります。君たち自身も、決して平たんな毎日などではなく、日々喜怒哀楽の中で心は揺れ続けたわけで、その分だけ一回りも二回りも大きく成長したように思います。

私は、高校生年代というのは、様々な経験を通して成長していく時期だと考えています。高校生の一日と大人の日とでは、貴重さという点では異なるものだと考え、できるだけ学びの機会を保障してきました。しかし、一つだけ心残りは、修学旅行を中止にせざるを得なかったことです。行先を変えたり、日程を変えたりした学校もあったわけですが、修学旅行の意義はみんなで行くことだと考え、行ける人と行けない人が出てしまう「分断」という選択をしませんでした。

今年の1月、大学入学共通テスト当日の朝、東大前で受験生ら3人が切りつけられた事件で、殺人未遂容疑で逮捕された少年が通う名古屋市の高校は次のようなコメントを発表しました。

「密」をつくるなという社会風潮のなかで、個々の生徒が分断され、そのなかで孤立感を深めている

生徒が存在しているのかもしれませんが。今回の事件も、事件に関わった本校生徒の身勝手な言動は、孤立感にさいなまれて自分しか見えていない状況のなかで引き起こされたものと思われます。今後の私たちの課題は、そのような生徒にどのように手を差し伸べていくかということであり、それが根本的な再発防止策であると考えます。

このコメントは、学校はいつでも生徒に寄り添いながら、教育活動全体を通して一人一人の成長を促す場であることを表明しています。話を修学旅行に戻すと、代替行事として開催した日帰り遠足。学校に戻ってきて、バスを降りたときの皆さんの笑顔が忘れられません。楽しかったとロタに話してくれました。それでも、コロナが終息した折には、今回行けなかった京都や奈良をぜひ訪れてください。見知らぬ世界を自分の目で確かめることは、ネットでは経験できないかけがえのない成長の機会だからです。

さて、先ほど、この3年間に国内外で起こった出来事を挙げましたが、私が皆さんに贈る最後の話は、その中から、大リーグを引退したイチロー選手についてです。まずは、イチロー選手とオバマ元アメリカ大統領との間のエピソードを紹介します。

2009年、当時のオバマ大統領は大リーグオールスターゲームで始球式を務めました。その日は、選手に対して、大統領にサインをお願いしてはいけないという禁止令が出ていました。多くの選手がサインを求めると大統領の負担になるからです。しかし、オバマ大統領のことが大好きだったイチロー選手は、なんとかしてサインを手に入れたと考え、ある作戦を企てました。

ロッカールームに激励に来たオバマ大統領が近づくのを見計らって、椅子の上に載せていたボールをわざとポロツと落としたのです。察しのいい大統領は「サインが欲しいのか？」と笑いながらボールを拾い、サインを書きました。そして大統領は、イチロー選手を応援しているファンの一人だと言い、「あなたは日米関係の象徴である。」と言葉をかけたのです。

象徴（シンボル）という偉大な表現で称えられたイチロー選手。それまでに見せたことのないほどの満面の笑みを浮かべた写真が、当時アメリカの新聞に大きく掲載されました。頼んではいけないと言われていたサインボールを、少しだけの工夫と勇気で手に入れたイチロー選手は、日ごろからこう述べています。

壁というのはできる人にしかやっこない。超えられる可能性がある人にしかやっこない。だから、壁がある時はチャンスだと思っている。

イチロー選手に立ちはだかる壁と私たちが挑む壁では、その高さは相当違うような気もしますが、サインボールの件のように、私たちの日常にも、やるかどうか迷うことは多々あって、そのたびに勇気がなくて挑まないでしまうということがよくあります。こんな言葉があります。

幸運や成功が欲しければ、毎日同じことをしてはいけない。
毎日同じことを繰り返していると、その中で想定される範囲のことしか、身の回りでは起こらなくなりま

す。一方、「幸運」や「成功」というのは、いつもと違う、良い出来事が起こることです。それに出会うためには、あえて意図的に、いつもと違う行動や工夫、そして勇気が必要なわけです。

しかしながら、コロナが拡がり、ただでさえも挑戦しようとする気持ちは湧きにくくなっています。時には、コロナを理由に、チャレンジしない自分を正当化してしまうことさえあります。

幸運や成功が欲しければ、毎日同じことをしてはいけません。

コロナ禍だからこそ、挑戦する心が大切なのです。そして、挑戦や勇気というのは、イチロー選手のようには一流かどうかとは無関係で、私たち自身の気持ちしだいなのです。

あらゆる選択は人生を決定するなどということではなく、単なる通過点に過ぎません。だからこそ、変化を求める勇気を持ちましょう。新しい自分に出会うために挑戦すること。そのためには、社会が涵養で多様性が保障されていなければなりません。今の社会は心もとなく、むしろ排除の理論が渦巻いています。それでも、舟の進路を決めるのは潮の流れでも風でもなく、帆の向きです。人生の航海で行き先を決めるのは、あなた方自身の心の持ち方しだいなのです。向かい風に立ち向かうときもあれば、風を待つべきときもあるでしょう。自分の力が及ばぬ時は他の力を借りながら、それでも情熱だけは失わず、一歩一本、前へ進んでください。

結びになりますが、シンガーソングライターのあいみょんが DISH に提供した「猫」という楽曲の歌詞に、

いつかフラッと現れてくれ

何気ない毎日を君色に染めておくれよ

...

いつか君がフラッと現れて

僕はまた、幸せで

という一節があります。

本校は私立学校で、みなさんがいつフラッと現れても、学校は変わらぬ姿のままで、ここにいます。先生たちも、できるだけ若さを保ちながら、いつもここにいます。これからの長い人生、人を敬い、人を愛し、人を信じて、力強く生きてください。そして、猫のようにフラッと顔を見せて・・・幸せをください。

令和4年3月1日

山形城北高等学校 校長 大沼 敏美